

令和3年度 北九州市口腔保健推進会議 議事要旨

- 1 日 時 令和3年11月9日(火) 18:30～20:00
- 2 開催場所 北九州市役所 15階15C会議室
- 3 出席者 [構成員] 濱寄座長、板家構成員、浦部構成員、岡本構成員、小畑構成員、鍛冶構成員、重國構成員、白木構成員、中村構成員、長副構成員、堀田構成員、牧構成員、増本構成員、眞鍋構成員、八尋構成員、力久構成員
[事務局] 保健福祉局健康医療部長、保健福祉局健康医療部健康推進課長、保健福祉局総務部認知症支援・介護予防センター所長、保健福祉局地域福祉部長寿社会対策課長、子ども家庭局子ども家庭部保育課保育指導担当課長ほか

4 議 題

- (1) 歯科保健事業実施状況について
- (2) 「第二次北九州市健康づくり推進プラン」の延長について
- (3) 「学校における歯と口の健康づくり懇話会」について(報告)
- (4) 情報提供
 - ・「令和2年度 北九州市歯科口腔保健事業実績報告書」について
 - ・「今日からはじめる健康づくり」改訂版について
 - ・母子手帳アプリ『きたきゅう子育て応援アプリ』について

5 議題概要

- (1) 歯科保健事業実施状況について
議題資料により保健福祉局から説明。

<主な意見・質疑応答>

構成員： 清水小学校では、給食後の歯みがきの実施、11月8日いい歯の日に合わせ各学級での歯の授業を開始、PTAによる歯ブラシの配布等を行っている。

構成員： コロナ禍において歯みがきを実施する際、うがい等はどのように感染対策をとっているのか。

構成員： 給食を食べ終わった子どもから順に手洗い場で自分のコップに水をいれ、周りに人がいないところで自分のコップの中の水を使って、各自で一方向を向いて歯みがきをする等、密にならないこと、飛沫を防止することに気を付けて昨年度から取り組んでいる。

- (2) 「第二次北九州市健康づくり推進プラン」の延長について
議題資料により保健福祉局から説明。

<主な意見・質疑応答>

構成員： 65歳以上の高齢者に対しては、様々なサロンや健口ストレッチ等の事業があるが、40～60歳代の方等に対してはどのような事業

を行っているのか。

事務局： 40～60歳代に対しては、歯周病（歯周疾患）検診を実施している。また、地域の方の要望に応じ、市内の区役所や市民センター、地域の組織・団体、ボランティア団体等が主催する事業に対し、歯科医師や歯科衛生士を派遣している。40～60歳代は働きかけが難しいが、国民健康保険の特定健診の対象者に毎年受診券とあわせて市が実施している歯周病（歯周疾患）検診を含めた健（検）診の一覧表を送付している。また、40歳以上の市民を対象に健康マイレージ事業も行い、歯科健（検）診の受診でポイントを付与する等の働きかけも行っている。

構成員： 資料1 ページの歯周病（歯周疾患）検診の結果を見ると、平成30年度と令和2年度を比較し変化がないが、受診する者は決まってきたか。特定健診も関心がある方が、毎年受けているが歯周病（歯周疾患）検診もそのようになっているのか。

事務局： 本市の歯周病（歯周疾患）検診は40歳・50歳・60歳・70歳の10年に1度の節目に実施している。70歳の方は当初から無料だが、40歳、50歳、60歳は令和元年度までは1回あたり1000円で実施していた。しかし、歯周病が全身疾患にも関連することから、受診率向上を目的に、令和2年度より40歳、50歳、60歳の受診料を1000円から500円に減額している。参考資料の「令和2年度 北九州市歯科口腔保健事業実績報告書」15ページの「歯周病（歯周疾患）検診の年齢別受診率の年次推移」のグラフを見ると、40歳、50歳は若干増加している。60歳、70歳は若干減少が見られるが、高齢者は特にコロナによる受診控えの影響があったのではないかと考えられる。

受診率の向上に関しては、乳幼児歯科健康診査等も含め、様々な啓発を行っているが、まだ低いのが現状である。今後も皆様にご協力いただき、受診率向上に努めていきたい。

（3）「学校における歯と口の健康づくり懇話会」について（報告）

議題資料により教育委員会から説明。

<主な意見・質疑応答>

構成員： 北九州市の小学生は約半数がむし歯を罹っている等の報道があり、北九州市の実態は広く伝わっていると思われる。

北九州市は、子育てしやすい環境をNPO法人が順位付けをする「次世代育成環境ランキング」で2020年の政令指定都市部門で10年連続の総合1位になり、評価をされているところだが、口の健康については、評価に見合った状況になっていない。むし歯の子どもが多いことだけでなく、健康格差が大きいことが問題となっている。他都市でフッ化物洗口を行っているところは、明らかにむし歯が減っている。フッ化物洗口を取り入れ、実際にその結果が現われるまでは時間がかかると思われるが、前例に基づいて取り上げていきたい。フッ化物洗口を実施していくには、学校の協力、そして市民の強い要望がなければならない。

これまで小学校でのフッ化物塗布は小学校2、3年生だけ行っていたが、今後は小学校全学年、また中学校でも行う事ができれば、成人のむし歯の減少、また健康全体にもつながると考えられる。特に家庭環境や生活習慣の中で、むし歯予防を行ったり、治療に積極的に行くことができない子どもたちにとっては、学校でのフッ化物洗口を行うだけでもかなり効果が伺えるのではないかと考える。

構成員： 北九州市の小児期のう蝕が多い原因としては、フッ化物塗布などの予防処置の対応の遅れ、含糖食品の摂取の多さ、保護者の口腔内への関心の低さ、歯科医療者からの啓発や取組み不足などが挙げられる。今後より一層、2 極化現象を生み出す社会環境を整えていく必要がある。

構成員： フッ化物洗口を実施するにあたって、学校現場の教職員は毎日非常に多忙を極めているため、教職員に負担のないような実施方法を教育委員会等も含め、検討していきたい。

構成員： 歯を大切にすることは大事なことである。学校やPTAを中心にフッ化物洗口等の取組みが広まってほしい。

(4) 情報提供

- ・「令和2年度 北九州市歯科口腔保健事業実績報告書」について
- ・「今日からはじめる健康づくり」改訂版について
- ・母子手帳アプリ『きたきゅう子育て応援アプリ』について

参考資料により保健福祉局、子ども家庭局から説明。

<主な意見・質疑応答>

構成員： 参考資料の「令和2年度 北九州市歯科口腔保健事業実績報告書」2 ページの夜間・休日急患センターの事業の中に、テレフォンセンターとあるが、口腔に関する相談の内容についてどのようなものが多いか。

事務局： テレフォンセンターでは、主に夜間・休日に歯が痛くなった場合に、開いている歯科医療機関の問い合わせが多いと聞いている。